

## 令和5年度 第1回 幌延町まち・ひと・しごと創生会議

日時：令和5年11月27日（月）

午後6時30分～午後8時30分

場所：幌延深地層研究センター国際交流施設

### ○ 参加者

幌延町まち・ひと・しごと創生会議委員：19名（1名欠席）

オブザーバー：11名

※委員・オブザーバー氏名については別紙参照

幌延町長 野々村 仁（諮問文書交付後、公務都合により退席）

幌延町副町長 岩川 実樹

総務企画課（事務局）

### <議事概要>

#### 1 開会

開会宣言

#### 2 委員委嘱

幌延町長より会議委員へ委嘱状を交付

#### 3 町長挨拶

幌延町・野々村町長より挨拶

#### 4 委員長・副委員長選出

互選による委員長・副委員長の選出として事務局案を提案し、全会一致で承認された。

委員長：横尾 明（幌延市街地区連合町内会）

副委員長：遠藤 雅樹（問寒別連合町内会／幌延町観光協会）

※野々村町長から横尾委員長へ諮問文書を交付

#### 5 幌延町交流拠点に関するこれまでの検討等の経緯【資料1】

事務局から資料1について説明

委員からの質問等なし

【全会一致で承認】

#### 6 幌延町交流拠点基本構想（素案）について【資料2】

事務局から資料2について説明

<審議>

- ・ 本施設は何をメインにしているか。何を売りにするか。わかっているならば具体的に聞かせて欲しい。（委員）

- 機能的に核になるのは入浴施設、遊ぶ場所、保健福祉と考えている。他に会議室なども考えているが、必要な部屋数などはこれから検討する。施設面での中軸は憩いの場としての浴場、多世代交流や地域交流が可能で、乳幼児が遊べる遊具・広場、多目的なスペース・会議研修室を位置づけている。メインは交流というキーワードで、その周りを保健・福祉、交通、避難所、観光で囲んでいる。(事務局)
- ・ 一番の問題は今のお風呂が使えなくなること、また、今回は道の駅ではないと理解して良いか。(委員)
  - お風呂の建替えに合わせ、知恵を絞って素案をまとめた。過去には「道の駅」というキーワードも出てきたが、一旦リセットし、これまでの検討を通じて「まちなか」の「町民」のための施設として考えている。(事務局)
- ・ 「避難所を備える」とあったが、新しい小中学校でも避難所機能の話があった。その辺は重複しないのか。(委員)
  - 一般町民の避難先は、体育館や学校となる。現在の福祉避難所は認定こども園となっており、災害時にこども園の運営が難しくなる。そのため、拠点に備える避難所は警戒レベル3が出た場合、高齢者に優先的に避難してもらう福祉的要素の強い避難所を考えている。(事務局)
- ・ 数日前の新聞に幌延町の人口が掲載されており、2,084人であった。去年から100人減っている。2028年度以降の人口の増減についてわかる範囲で教えて欲しい。(委員)
  - 人口推計は5年ごとに行われており、令和6年度に国の推計値と照らし合わせて細かい推計を行う。自治体の人口規模は2,000人がボーダーラインと言われている。それを下回ると町としての機能が維持できなくなることから、2,000人を下回らないようにいろいろと検討している。現段階で2,084人が今後どうなるかという推計はない。(事務局)
- ・ 基本構想の出発点だと思うお風呂を中心に考えて行くことは理解した。町民の中には理解せずに、いろいろな意見が出ている。基本構想をたたき台として、町民に必要なもの、不必要なものを投げかけてみてどうか。(委員)
  - 今回の素案については、町民アンケート結果やここ数年間の創生会議等における検討を踏まえとりまとめたものとなっている。

最終的にパブリックコメント手続きを実施するが、創生会議の委員の皆様の色々な立場からの声をお聞きし、構想をとりまとめたいと思っている。(事務局)
- ・ これまでの検討経緯を知らない方は、拠点について説明しても「いる」「いない」の声が多い。今後、実際に進めていく際に不安が残る。素案を町民に示した方が進めやすいと思っている。(委員)
  - 令和3年度に実施した町民アンケート結果について概要を説明させていただく。回答者は220名と町民全員ではないが、拠点整備の必要性については、必要と思うが61.5%、現状のままが良いが30%、回答無しが7.7%で、必要と回答する方が多かったことから検討を進めている。拠点の機能については、利便性向上にこだわった機能が48.5%となっており、その結果に基づいて素案をまとめた。(事務局)
- ・ 町民アンケートは、回答する人は回答するが回答しない人は全く回答しない。自分の現状しか考えない方がいる。アンケートをやっても同じだと思う。この場を含め、アイデアを出し合

う場があった方が良くと思う。(委員)

- ・ 今回の内容は広報などに掲載されるか。
  - 広報誌への掲載ではなく、ホームページでのお知らせを考えていたが、より広く周知する方法として検討する。(事務局)
- ・ 道の駅はどのように考えているか。(委員)
  - 町として道の駅構想はない。道の駅の要件である 24 時間トイレや広い駐車場があれば、道の駅として申請できる。道の駅になるとスタンプラリーを含め多くの方が訪れる施設となるが、施設の性質を踏まえ、最後に判断した方が良くかと思っている。(事務局)
- ・ 入浴施設については現状の施設で 5 年間(令和 9 年度まで)運営するということか。(委員)
  - 令和 9 年度までは現状の施設で運営するが、切れ間なくオープンさせるため令和 10 年度のオープンを予定する。(事務局)
- ・ 小中一貫校の整備もあり財政負担を心配している。財政について教えて欲しい。
  - 予算規模についてはまだわからないが、学校の建設時期を 1 年ずらして財政負担が集中しないように配慮している。(事務局)
- ・ 人材不足が深刻化している。ハコモノに大きな予算をかけるより、人にお金をかけた方が良くはないかと思った。(委員)
  - 人口減少、少子高齢に対応し、住みよい町をつくるツールとして拠点をつくることもあると思う。

※ 学校建替えの話が出ているが、学校の建替えに向けて今年度基本構想を策定する。その中で、学校内に児童クラブの会場をつくれないうか検討しており、児童クラブがどこに入るかは流動的な状況になっている。(事務局補足)

- ・ 幌延町移住情報 PR 支援センター(ホロカル)は町民の利用も増えてきている。ホロカルは幌延駅にあり、市街地から離れているため足腰が弱い方には行きにくい場所にある。役場の近くにあれば、町民の方の利用が増えると思う。施設運営としては人手不足が深刻で、働き手の確保に不安がある。(委員)
  - 新たな拠点については、現状の入浴施設の営業時間が最低限の営業時間になると思うが、具体的な運営主体や雇用については決まっていない。運営主体については町内の事業者管理委託するか、町外の事業者管理委託するか、方法あると思っている。同時並行で検討を進めていく必要があるが、現状追いついていない。(事務局)

【継続審議とする】

### <オブザーバーからの意見>

- ・ 子供が集まれる場所は、かなりの人を呼ぶことができ、笑顔が生まれ活性化する要素が強い。紋別のオホーツク流氷公園のように子供が集まれる場所でもあり、観光需要も取り込める施設もある。老人の方が利用する入浴施設とともに、子供たちが笑えるというコンセプトが重要になると感じた。(宗谷総合振興局地域政策課)
- ・ 拠点施設の全体の広さはどの程度を見込んでいるか。役場周辺で敷地を確保できるのか。(天塩警察署幌延駐在所)
  - 現時点で具体的な平米数は無い。役場周辺の敷地で収まるように検討したい。平屋では整備できないと思われるため、2階建てないし3階建てで費用を含め検討する。(事務局)
- ・ 拠点が整備されれば、訪れる子どもも多くなり不審者対策が必要になってくると思う。防犯ステーションや子ども110番の家もあるが、拠点でも一緒にやらせていただければと思う。また、防犯カメラの設置についても相談させていただきたい。入浴施設については、個人的にサウナを充実させることで、中高年も若者も集まると思うので、力を入れてほしいと希望する。(天塩警察署幌延駐在所)

### 7 その他

- ・ 視察については具体的な視察先をリストアップし、任意の日付でアポイントを取った上で、案内させていただく。
- ・ 次回の会議の案内も、幅広く案内させていただき、一番集まりの良い日時にしたいと思っている。
- ・ 委員の報酬、費用については、12月中にお振込みさせていただく。
- ・ 議事録を作成の上、委員のみなさんに郵送にてご連絡する。

### 8 閉会